

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701760		
法人名	社会福祉法人 倫尚会		
事業所名	グループホーム倫尚園	ユニット名	Aユニット
所在地	福岡県北九州市八幡西区馬場山東三丁目11-1		
自己評価作成日	平成23年1月23日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月15日	評価結果確定日	平成24年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム倫尚園は、福智山をバックに大自然の空気の良い環境の中で、高齢者複合施設の1階に位置しています。2階には特別養護老人ホーム、3,4階が養護老人ホームとなっており、交流を深める為のコミュニティーホールがあり施設全体の行事や地域の方々とのふれあい、介護予防事業の場として活用しています。グループホームでは食堂、談話コーナー、和室など一人ひとりを尊重し、くつろいでいただける空間の他、広々として庭園では四季折々の山々を眺めながら車椅子でも気軽に散歩や野菜づくり、気候の良い時期にはおやつ、バーベキュー等野外での活動に工夫をこらし、利用者の「暮らしの場」として潤いと豊かさ、プライバシーに配慮した家庭的な生活環境を提供しています。職員は「認知症」に対する理解を深める為、職員間での勉強会、市の認知症講習に参加し、知識や技術向上を目指し、スタッフとの連携を保ちながら利用者が安心安全な暮らしができるようサービスの質の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者複合施設「ウェル馬場山」の1階に位置し、平成24年4月には、開設して10年目を迎える。歴史ある法人としての実績やノウハウを活かし、また、多様化する地域のニーズへ対応すべく、正面玄関のある2階には、コミュニティーホールも設けられ、地域交流や介護予防事業の場として活用されている。複合施設の入居者との交流もあり、ひな祭りを前に、ホールには合同製作の丹精込めたさげもんが飾られ、訪れる人を迎えており、施設全体の連携を活かし、合同の行事、研修、防災対策、地域交流等を行い、サービスの向上へと結び付けている。敷地内の広い庭園には東屋が造られ、散歩の際の休息の場となっており、畑での野菜作りや花壇の手入れに勤しむ姿もある。また、室内空間には、各所にその方にとっての「居場所」が設けられ、豊かな生活環境の中で、心身機能の活性化に向けた働きかけが行われている。誕生月には「夢を叶えます」として、思いや願いの実現に取り組んでおり、今後も、入居者の心情に寄り添い、家族や地域との連携を活かしながら、個別性を重視した支援の広がりが期待できる事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に地域との交流をふまえたものも掲げホームで常に意識をし実践に向け取り組んでいる。	グループホームとしての基本理念や基本姿勢、基本方針を明確に示しており、立ち返る場所としても位置づけ、勉強会等において共有、浸透を図りながら、実践に結び付けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭り等に参加したり、施設ホームの行事等で地域の方々とのふれあう機会を作って交流している。	町内会に加入し、地域の文化祭や老人会のグランドゴルフへの参加や見学、地域の祭りの際には神輿の巡行を受けている。また、地域の馴染みのパン屋さんでの買い物、幼稚園や小学校との交流、高校生の実習受け入れ等、地域との交流を積み重ねている。介護予防事業を受託しており、入居者の方々も参加し、地域住民との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や園の行事へ参加された方々に認知症の病気への理解をして頂き、広報誌等にもより支援を掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では提供しているサービスや困難事例報告し参加メンバーから意見を頂いている。	2か月に1回開催され、家族代表者、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得ている。状況報告や意見交換を行い、運営に反映させるよう努めている。議事録は玄関に掲示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所として市の委託を受け、介護予防事業や市の研修に積極的に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	北九州市より介護予防事業の委託を受けている。また、毎月介護サービス相談員の訪問を受け入れている。運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について法人内で研修、勉強会を行い市主催の研修にも自主的に参加し職員全体で意識を高めている。	法人として身体拘束委員会を設置し、法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。事業所、及び法人内研修の実施、外部研修への参加を通じて、禁止の対象となる具体的な行為を理解し、また、言葉による抑制についても意識を持てるよう、職員間の共通認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修勉強会を行い、職員間で虐待とみられる行為のないよう、意識し注意を払っている。		

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については施設内研修や市主催研修等に参加し権利擁護事業に活用し支援している。	入居契約時に、権利擁護に関する制度について説明を行っている。現在、制度を活用している方もおり、その支援の過程や、内外の研修に参加することで、制度についての理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面に沿って十分に納得されるように説明をし、質疑をしている。苦情に関する申し立てもフローチャートに沿って説明し納得いかない時は介護保険課や国保連申し立てもできる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者の意見要望を聴いているが、家族会・施設全体の行事があるとき、オンブズパーソンに於いても機会を設けている。	年3回、家族会が開催されており、多くの家族の参加を得ている。また、家族来訪時や行事の際も、意見や要望の収集に努めている。内容はノートに記載され、職員間で情報を共有し、迅速な対応に努めている。第三者によるオンブズマン会議が設置されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度始め、全職員に対し運営方針を説明し運営に関し大きな変更等がある場合は意見を聞き、改善に努めている。	職員から管理者、そして法人全体へと、意見を収集、検討していく仕組みがある。ホームのミーティングから、月1回、施設長も参加する法人のセクション会議で意見を出し合い、運営に反映させて行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として労使協議会で要望等話し合いで決定。職員が働きやすい環境条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用について法人事務局で行なっているが、現場の意見も取り入れられている。勤務については要望に応じ、働きやすい様に配慮している。	法人としての募集、採用となっており、性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。常勤採用を基本とし、資格取得に向けたサポートや勤務調整、希望休の取得や休憩時間の確保等、スキルアップや働きやすい職場職場作りに取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内研修に参加し、学ぶ機会を設けている。又、勉強会等で人権について話し合うようにしている。	法人として、継続して人権教育を行っている。また、ホームとしても様々な視点から学ぶ機会を持ち、意識を高めている。職員のストレスケアにも留意している。	

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では研修を実施している。外部研修についても自主的に受講し、他グループホームの職員と合同勉強会や自主学習の機会を作る様にしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部のグループホームの職員と交流し合同勉強会を行い意見交換をして質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まった時点で御本人に困っている事、不安な事、要望等を傾聴し安心して生活できるサービスを導入している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時点で家族等の困り事、不安に思っている事をしっかり聞き取り信頼を徐々に築いていくよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他機関、居宅事業他グループホームとの連絡調整を図りながら利用者、家族の要望に対応できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する事を意識しお互いに学び、支え合う関係作りに努め、野菜作り、クッキングを実践しお互いの関係を築いている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族が共に支え合える環境作りを支援している多くの家族の協力にて病院受診、行事の参加、外出支援も得られている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には御本人の思いをくみとり、馴染みの方への交流は電話や面会、体調等に依じてなつかしい場所の外出支援も行っている。	入居時の情報収集や日頃の関わりの中から、馴染みの関係性の把握に努めている。誕生日日には「夢を叶えます」として個別支援を企画し、馴染みの教会へ出向いたり、居住地であった場所へのドライブ、お墓参り等、関係性の継続を支援している。	

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士の関係に十分配慮し、食堂・座 敷での座る位置を決め、うまく交流が行える よう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に住み替えたり、長期入院で退去 になった場合でも職員が面会や見舞いに 行ったり、来園・相談ができる事を家族に伝 え開放している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	御本人、家族の希望、意向に沿い生活歴 チャートフェイスシートを作成し、本人の思 いを把握し利用者のサービスに努めてい る。	本人、家族の思い、生活歴を聴き取り、フェイスシートに 記録し、半年ごとに更新を行いながら、職員の情報の共 有を図っている。困難な場合は、言葉や様子、家族情報 等から、本人本位に検討するよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	利用者には本人の思いをくみとり、生活歴、 サービス利用歴の把握により馴染みの品等 も持ち込んでいただき安心した生活ができ るよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	介護職が日々介護する中で現状を把握し、 勉強会で話し合っ方針を統一している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人、家族の意向を第一に主治医、介護者 の意見も反映させながら利用者本位、現状 に合った計画を作成している。	職員は担当制を取っており、毎日のケアチェック表で介 護計画を確認しながら支援を行っている。モニタリング実 施時に、職員の気づき等をフェイスシートに追記してい る。本人、家族の意向や、主治医の意見を踏まえ、職員 間での協議を経て、介護計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画のチェック記録のチェック、活動の チェック、介護の一覧表等、毎日記録し見直 しにも活かしている。		

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診・外出・ショッピング・行事等利用者や家族の状況に応じ対応し支援に努めている。施設の看護師の協力を得て対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	複合施設としての利点を活かし校区内の小学校、幼稚園との交流。地区住民のボランティア、売店、理美容の訪問又、市民センター主催の参加等の支援をしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医との個別受診、経過記録を作成している。在宅医療も活用し、内科・皮膚科・歯科等の往診を受けてアドバイスを得て支援している。	入居時に、本人、家族の希望するかかりつけ医を確認し、個別受診・経過記録を作成し、情報を共有している。現在、皮膚科や歯科も含め、複数の医療機関からの往診体制を確立している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	複合施設内に看護職が常勤しており、いつでも相談、対応も依頼できるように体制が整っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、職員は頻回に面会し、御家族及び病院関係者と情報の交換を密に行い早期退院できるよう連携を取っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケア方針はなく対応に困難であるが重度化に伴い、在宅医療を活用し可能な限りホームの生活が継続できる体制を整備している。	現状としては、看取りへの対応は行っていないが、同法人施設や協力医療機関との連携も含め、本人、家族が安心して過ごせるよう支援している。入居時の説明や、状況の変化に応じて、家族や医師との話し合いを行い、情報や方針の共有に努めている。可能な限りホームでの生活が継続できる様、支援体制の構築に努めており、入居年数が長い方も多い。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回の職員消防署よりの救命についての実践・講義を受け、施設内でも定期的な訓練を行っている。		

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設として定期的に昼夜を想定し避難訓練を実施している。又、地域の方の協力を得て訓練を実施する事もある。	複合施設「ウェル馬場山」として、昼夜を想定して定期的に避難訓練を行っており、地域からの協力や参加を得た実績もある。非常時には、複合施設内の他事業所からの応援体制も確立され、飲料水や非常食等の備蓄品も用意されている。防火扉が設置されている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修・勉強会に於いて、意識付けを行っており、プライバシーの確保と言葉かけには十分注意を払っている。	自室内からの施錠を希望する方もおり、本人の意思を尊重し、就寝時の施錠やさりげない見守りを支援している。理念の共有、実践に向けた取り組みや、研修・勉強会を通じて、入居者の尊厳やプライバシーの確保について意識を高めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者と接しながら本人の思い、希望をくみとり自己決定できるよう働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状況や生活リズムに合わせ体操・散歩・歌・ゲーム等を提供。自己決定を尊重し満足のいく支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類については御本人に選んで頂くが意志決定ができない方はその方にあったものを選びおしゃれを支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭園でとれた野菜等でおやつ作りに活用したり食事時には台所の手伝い盛り付けを職員が支援しながら行っている。	毎年嗜好調査を行っている。法人厨房での調理となり、月2回のクッキングの日を設けたり、家族を招いての試食会では、一緒に食事を楽しむ機会も設けている。手作りのランチョンマットで食事が楽しくなる工夫もされ、寿司バイキング、菜園で採れた野菜を使ったお好み焼き作りも行われている。おはぎ、コーヒー、ココア等を楽しむ「お好み喫茶」も定期的に催される。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて食事量・水分量チェック表を作成し、健康維持に努めている。		

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○ 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に応じて消毒液・歯ブラシ・舌ブラシ・ガーゼにより毎食後口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排尿パターンを把握し個々に応じたトイレ行きの習慣が自立できるよう支援している。	排泄チェック表をもとに、個別の状況や排尿パターンを把握して、さりげない対応に配慮しながら、トイレでの排泄支援を行っている。自尊心の回復やQOLの改善、快い暮らしの継続に向けて、管理者、職員は、今後も重点的に取り組む意向である。	
46		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤に頼らず、運動・食物繊維(バナナ・ヨーグルト等)水分を細めに提供し、腹部マッサージして排便の把握をしての便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は常時入れる温度にしている。朝一番希望される方、自発的な入浴はない声かけを行い、気が合う方同士で好きな時間等、本人の希望に沿うよう支援している。	常時入浴できる設備があり、本人の希望や状況にあわせて、柔軟な対応を行うことが出来る。壁材や浴槽に檜を用い、香りが漂う中、個浴や気の合う方同士での入浴等、個々にそった支援に努めている。	
48		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	脳の覚醒状態等を考え、日中の活動を高め、夜間は安眠できるよう支援。100歳以上の方には昼寝も取り入れている。		
49		○ 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の内容を職員は把握し、副作用のある食物にも気をつけ、服薬後の異常等あれば主治医に連絡指示を仰いでいる。		
50		○ 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中各自で刺激・楽しみ(2.3.4階の散歩と交流・カラオケ・手芸・草取り・台所の手伝い等)を入居時に生活歴を把握し、個々の趣味等を発揮していただけるように支援している。		

福岡県 グループホーム 倫尚園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生月のサービスとして希望される場所への外出支援(教会・お見舞い・面会等)ドライブ・茶話会・ショッピングへ支援している。	複合施設の敷地内には、広い庭園が設けられ、散歩の途中で東屋で休んだり、花の手入れや畑の様子を眺める等、戸外に出やすい環境にある。また、誕生月には、「夢を叶えます」として希望を聴き取り、個別支援が行われている。	
52		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方はお金を所持されているが物盗られ妄想の要因となる場合もあり2名の方のみショッピングの際、支払いを自分でいただいている。他の方には支払いの際、その場で手渡し払っていただいている。		
53		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの電話の取り次ぎ、本人が希望される場合は2階公衆電話まで誘導し会話ができるようにしている。贈物・手紙の御礼の電話の支援を行っている。		
54	(22)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設を感じさせず暮らしが感じられるように配慮している。座敷には掘りごたつ式のテーブルがあり、利用者がゆっくりとくつろげる家庭的な雰囲気づくりをしている。	組み合わせ自由なテーブルが置かれた食堂や、廊下に配置されたソファ、庭園を眺めることができる和室には掘り炬燵が設けられ、その時々に応じたくつろぎの場所がある。また、気の合う方同士で過ごす場所や、一人で過ごせる場所等への配慮が行われている。壁の掲示物を見ながら、機能訓練をかねて回廊を一周出来る様、工夫されている。亀や金魚の水槽や鉢植えの植物も数多く配置され、空間作りへの工夫がうかがえる。	
55		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、談話コーナー、お座敷等で利用者同士で思い思いに語り合ったり、一人で読書、テレビ観賞等を行える工夫をしている。		
56	(23)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向に沿って使い慣れたものや好みのもを置いていただき、居心地良く安心して生活できるよう工夫している。	ユニットごとに、洋室8、和室1の居室設定があり、生活習慣や希望、状態にあわせた選択が可能である。窓も大きくとられ、圧迫感を感じない。使い慣れた家具や調度品、大切な物が持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。内側からの施錠が可能となっており、見守りを行いながら、プライバシーの確保に向けた支援も行われている。	
57		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	加齢に伴い、下肢の低下が見られつつあるが、できる限り残存機能を活かした生活をしていただいている。ホーム内の手摺り、起立するための安全バー、居室の分からない方への表札、トイレは便所と表示し、混乱を防ぐ工夫をしている。		